

取り組み項目	具体的な手立てと成果	課題 →→→→→	→→→→→ 来年度に向けての改善策	評定	学校関係者評価委員会 評定・表現の妥当性、付帯意見
自ら学び、共に学ぶ力を身につけさせる ～ 考えと考えをつなぐ ～					
授業改善に努め、自主的・意欲的な態度や思考力・判断力等の向上を図る。	◎授業の始めに今日のめあて、どこまで進むのかを提示した。◎理解の早い児童には発展問題をさせたり、友達にわかりやすく教える工夫をさせたりすることで活用する力をつけた◎教科書以外の教材を取り入れ、児童の実態に合った授業を作ることで理解が深まった。◎先進校の見学や研修講師の話から、子どもたちに思考力や実践力をつけさせる手立てを学び、日頃の授業への活用を試みた。	①学力(テストの点数)にくらべて、関心や意欲が低い。総合的な学習の時間での探究的な学習が余りできていない。	①関心、意欲、思考力も含めた、つけたい力を各学年で明らかにし、どの教科でも、総合的な学習の時間でも、系統性をもった学習ができるようにする。	3.3	B 妥当である キッズサイエンスは、科学への興味を高めるとても良い取り組みだと思う。先生の工夫次第で興味関心が高まるので、授業の中で子どもが食いつく工夫をどんどんお願いしたい。
言語活動や言語環境を充実させ、あらゆる場面で生きて働く言葉の力を高める。	◎聞き合いによって、児童の聞く力が育っているように感じる。さらに多くの児童が発言の場を持てるよう、ペアトークやグループトークをもう少し入れたら良かった。◎主語述語を明確にし、文で表現するように指導している。◎毎日のスピーチタイムにより表現力が高まった。◎指名なし討論など児童の主体的な言語活動を促すよう心がけている。	①アンケートによると、授業の中での話し合い活動やグループでの調べ学習が余りされていないと思っている児童の割合が多い。	①テーマを決め、ペア、班、全体といろいろな単位で話しあう活動をもっと取り入れる。児童が話し合いたい、調べたいと思える課題が設定できるよう工夫する。	3.2	B 妥当である 言語環境に関しては、全校読書で今日はこのテーマの本をみんなで読もうという働きかけが、時にはあってもよいのではないか。読み聞かせに地域の民話もとりいれてはどうか。
学力実態を分析し、きめ細かな指導や自発的学習の習慣化等の学力向上策に組織的に取り組む。	◎高学年算数はTTだったので、きめ細やかに指導できた。◎放課後学習は効果があった。◎児童の実態を細かく分け、目標に達していない児童に対してどんな指導を行うか考えた。◎テストの直しを徹底した。◎各クラスの児童の実態を交流し、学年としてどのような力を身に付けたいか明らかにしていた。	①学力向上について、具体的な方策を考える場、授業づくりの工夫を考える時間がなかなかとれない。	①学力向上委員会を組織としてきちんと位置づける。ノートのみまとめ方、予習・復習の仕方、ワークシートなど、各学年、各教科での取り組みを気軽に交流できるような場と雰囲気づくりを行う。	3.0	B 妥当である 自発的な学びの習慣作りには親の姿勢、家庭の態勢が大切なことはわかっているが、なかなか難しい。学校からの効果的な働きかけに期待する。
正しい判断力とより良い人間関係を築く力を身につけさせる ～人をつなぐ～					
夢や自尊感情を持たせ、自己実現の意識を育むとともに、家庭や地域と連携しながら規範意識や自己指導力を育成する。	◎なりたい自分を明らかにし、様々な職場で活躍している人に授業をしていただき、働くとはどういうことか考えることができた。◎子どもの現状より少し上のレベルの目標を与え、やり抜くことで達成感を味わえるようにした◎読み物教材を中心とした道徳の授業を行った。◎言葉遣いの指導や相手の気を害するような言葉が出た時絶えず指導している。◎年度初めに学年としての心構えやきまりを作り、学年集会で共通理解を図った。◎つまりきがあった場合それを成長の一歩ととらえ、家庭や本人、周囲の子ども達に伝えた。	①自尊感情の低さについては、前に出ることによる臆病だったり、失敗を怖がったりする傾向がある。 ②アンケートによると、地域と関わる意識が少ない。	①体験的な活動を充実させ、ふり返りの場面でチャレンジして乗り越えたときの達成感や充実感を味わわせる。 ②自分や他人のいいところ見つけ、学年をこえた活動、地域との協働など、他との関わり合いの機会を増やしていく。	3.0	B A評価でも良いぐらいである 夢を持たせることが大切だが、創立40周年事業を通して、夢を語る機会が持たせて効果があったのではないかと。親も自分の子どもだけでなく、地域全体に貢献する意識が大切である。親や地域が参加する教育活動でなにかできることがないか考えていきたい。
他者や自然とふれあう機会を増やし、命を尊ぶ心やより良い人間関係を築く力を育成する。	◎学年で地域に出かけて自然体験に取り組んだ。◎昆虫や小動物の飼育法を調べて学級で飼育観察した。◎自分の手で野菜を育て、観察したり、ヨモギの採集、団子作りをした◎田植え稲刈りなどの体験の中で生き物や食物を大切にしようとする心が育ってきた。◎ペア学級の低学年の子と休み時間にも交流を持ち、思いやりのある態度で接することができた。◎特支学級児童との交流を通じて通常学級の児童が相手の気持ちを考えたり人に優しく接することなどを学ぶ機会になった。	①自然や生き物とふれあう機会が少ない。 ②最近、児童のあいさつの仕方に質の低下が見られるのではないかと。	①ビオトープを活用し、授業で意図的に使ったり、関わらせたりする。管理が大切なので、しくみづくりを工夫する。 ②あいさつの在り方について共通理解を図り、一貫した指導を行う。	3.0	B 期待度で言えばA評価である ビオトープは、現在造成中のものだけでなく、将来的に他の場所とつながり発展していくことを期待している。子どものあいさつは、外から見るとできているように見える。
豊かな心と健やかな体を育てる ～ 心と体をつなぐ ～					
食や健康に対する正しい知識・情報を理解させるとともに、家庭と積極的に連携し、望ましい生活習慣の確立を図る。	◎栄養教諭と協力して各学年で食育の授業を行い、食に対する意識が高まった。◎給食委員会の放送が良かった◎保健所の人から専門的に話していただくことで、健康保持のために必要な知識を身に付けさせることができた。◎パンのカビなど保健室前の月替わりの掲示が良かった◎保健も食育も大変充実していた。	①出前授業など体験を伴う食育の授業は充実していたが、タテのつながりがどうなのか。家庭での食生活に偏りがないか、栄養バランスを考える取り組みが必要。	①系統性を意識した、学年ごとの食育カリキュラムの作成。食に関する情報を親子で同時に共有できるような機会を工夫する(例えば親子合同の講演会、講習など)	3.4	A 妥当である 家庭への働きかけに期待したい。
自らの身体や健康について関心を持たせ、保健・体育・スポーツ活動を充実することにより、健康の増進や体力の向上を図る。	◎養護教諭の保健指導が良かった。◎低学年児童に向けて専門的な立場から自分の体を大切にするという授業があって良かった。◎1～6年まで成長段階に応じた性教育のカリキュラムを作成実施した。◎鉄棒カードやマラソンカードを作って自主的に運動に取り組めるようにした。◎みんな遊びの時間を設け、子どもたち主体で工夫して外遊びに取り組んだ。	①体育で指導する技能の中で低・中・高の間でレベルが逆転している場合がある。 ②体力テストでは持久力と握力が弱い。体育の授業でやっただけで終わるのではなく、児童の生活の中で遊びの中でもっと運動の機会を持つ必要がある。	①体育のカリキュラムの系統性を再検証する。 ②休み時間に、外遊びを奨励することを学校全体として共通認識する。	3.0	B 妥当である 体育委員会の「増え鬼」の取り組みは楽しかったそうなので、マラソン大会やなわとび大会とともに、今後充実させてほしい。
保護者や地域に信頼され、魅力ある学校づくりに取り組む～学校・保護者・地域をつなぐ～					
保護者・地域・関係機関とともに学校の防災・防犯体制を強化し、安全安心な学校づくりを行うとともに、子どもにも危険予測能力や危機回避能力を身につけさせる。	◎オープンスクールでの全校での防災の取り組みが良かった。◎休み時間に避難訓練を行い、子ども達がどのように動くか考えることができた。◎着衣水泳の指導では、もしもの場合について体験学習をすることができた。	①ケータイ(スマホ)や、ネットが予想以上に普及しているが、その進歩に大人がついていけていない。 ②自転車の乗り方のマナーの悪さが問題になっている。	①ケータイ(スマホ)や、ネットとの正しい関わり方を学ぶ講習や講演会を親子で受ける機会を作る。 ②交通安全協会の指導のもとに、自転車教室を3年生対象に実施する。	3.2	B 妥当である 自転車の乗り方のマナーの問題は、大人にも大いに問題があり、朝の交差点のルール違反がひどい。まずは子どもから学んでほしい。
積極的に情報を発信して保護者や地域とのつながりを深めるとともに、学校評価を活用してPDCAサイクルに基づいた改善と結果公表を行い、魅力ある学校づくりを行う。	◎出前授業のとき保護者に声かけすると23名もの参加があり良かった。いつでもオープンスクールの意識を高めていきたい。◎学びの広場での家庭への呼びかけ◎HP、学級通信での情報発信(行事の写真)を増やした。	①魅力ある学校づくりに向けて、PDCA(目標→実行→評価→改善)サイクルをより意図的にまわす。 ②参観・懇談やオープンスクールを情報発信の場として活用する。 ③ホームページで児童の写真を掲載するときのチェックが機能しているか疑問。	①学校の方針を積極的に打ち出し、寄せられた意見をチェック、分析して、改善に役立てる。 ②最後の参観・懇談を低・中・高の3回に分ける。オープンスクールは年間5日間とする。 ③年度初めに、ホームページへの児童の写真掲載についての許諾をきちんととる。	3.0	B 妥当である PDCAサイクルをまわす単位が1年というの一般的に見て長すぎる。しかし行事が終わるたびにふり返りをして、その都度改善に向かっているとのことなので、妥当ではないか。
一人一人の教職員が自己研鑽に努めつつ、共に磨き合い高まり合う研修を行う「学び続ける組織」であることにより、保護者や地域から信頼され共に伸びる学校を目指す。	◎経験豊かな講師による研修。◎授業公開をしてもらえてよかった。◎子どもと競い読書に励んでいる。◎夏休み学習会で学年を超えた話し合いができた。	①教員の急激な世代交代に伴い、若手を育てる体制、若手が自ら学べる場を充実させる。	①優れた講師を招聘して研修の機会を持つ。ベテランと若手、若手同士など、学年を超えた集まりを持ち、話しやすい雰囲気の中で学べる場にしていく。	3.2	B 妥当である